



中国の回族の人々は、モスクの運営費や宗教行事に関する諸経費、イスラームの教えを広めるための出版物の刊行費用などへの喜捨（寄付）を「七帖（ニエティエ）」と呼ぶ。さらには、宗教活動の際、コーランをよんでくれた人々にニエティエとしてお金を渡す人々もいる。かつては、現金をそのまま、もしくは白い紙などに包んで渡していた。近年になって、このような専用の袋が用いられるようになってきている。

【横山先生からのひとこと】

中国では漢族を中心に、日本で言う「ご祝儀袋」を使う習慣があります。いろいろな場面で、その中にお金を入れて、心づけを渡します。ムスリムの信仰と結びついた「喜捨袋」も、ご祝儀を贈る習慣が発達した中国の影響を受けているのかもしれない。

【今中先生からのひとこと】

コーランをよんでくれた人々にお金を渡すことについては、回族の間でも賛否両論です。このような意見の違いは親戚づきあいにも影響するため、考え方の異なる家同士では互いに結婚を避ける地域もあります。